

★必ずお読みください

インフルエンザと予防接種について

インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをすることで、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。

典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。

また、まれではありますが、主に幼児や小児においてインフルエンザ脳症等が起きることが報告されています。

インフルエンザワクチンについて

インフルエンザワクチンは、流行状況を考え毎年決定されます。発症阻止効果については様々な見解がありますが、肺炎などの重症化は予防できると考えられています。

任意接種であることや発症阻止効果について十分ご理解いただいた上で、ご希望の方に接種をしております。

インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、腫れたり、痛んだりすることがあります。また、発熱、寒気、頭痛、全身のだるさなどがみられることもあります。いずれも通常2～3日のうちに治ります。さらに、接種直後から数日中に発疹、じんましん、紅班、かゆみ等が現れたり、非常にまれですが、ショックやアナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）などが現れる等の報告もあります。その他、けいれん、脳炎、髄膜炎、喘息発作、黄疸、肝機能障害等の報告もあります。卵アレルギーのある方は強い副反応が生じる可能性がありますので注意が必要です。接種後24時間以内の健康状態の変化、特に30分以内の急激な健康状態の変化には、注意が必要です。

予防接種を受けることができない人

1. 接種当日、明らかに発熱のある者（一般的に、体温が37.5℃以上の場合）
2. 重い急性疾患にかかっている者
3. インフルエンザワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな者

アナフィラキシーとは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。

発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

4. 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者
5. その他、医師が不適当な状態と判断した場合

※裏面につづく

予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

1. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する者
2. 過去にけいれんの既往のある者。
3. 過去に免疫不全の診断がされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者
4. 間質性肺炎、気管支ぜんそく等の呼吸器系疾患を有する者
5. 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある者

その他（副反応が起こった場合）

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあるほか、偶発的に発症または発見された疾病が混入することがあります。（紛れ込み事故）

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師の診療を受けてください。健康被害が生じた場合の救済については、保護者が独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。

【 インフルエンザの予防のために 】

～予防には、普段からの日常生活にも気をつけることが大切です～

- 規則正しい生活を心がける。
- バランスの取れた食事を摂る。
- 手洗いやうがいを習慣にする。
- 咳エチケットを守る。
 - ・ マスクを正しく着用する。
 - ・ 咳やくしゃみをするときは顔をそむける。
 - ・ ティッシュや袖口で口と鼻を押さえる。
 - ・ 鼻水や痰を含んだティッシュは蓋つきのごみ箱にすてる。
- インフルエンザの流行時は、不要な外出を控えましょう。
小さいお子さんは特に注意が必要です。

不明な点がありましたら下記へお問い合わせください。

遊佐町役場 健康福祉課 健康支援係

☎ 7 2 - 4 1 1 1